

研究所だより

第372号
2017年 3月22日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3015

“白い光の中に 山並みは萌えて 遥かな空の果てまでも 君は飛び立つ
限りなく青い空に 心ふるわせ 自由を駆ける鳥よ 振り返ることもせず
勇気を翼にこめて希望の風に乗れ この広い大空に夢をたくして”



『旅立ちの日に』1991年 合唱曲

1991年埼玉県秩父市立影森中学校の教員によって作られた合唱曲

〔作詞：小嶋 登（校長） 作曲：坂本浩美（音楽教諭）〕



～希望に満ちた春がやって来ました～



“光陰矢のごとし”とはよく言ったもので、過ぎ去ってみれば1年というのは本当に早いですね。この1年間の学校経営、学級経営、教科経営等ご苦労様でした。

この春をもって退職される先生方、長い教員生活の中で数多くの教え子を育てられてきたことでしょう。今春からは自由人となります。趣味などを生かした第二の人生を謳歌してください。益々のご活躍とご健勝を心からお祈りいたします。

現任校を離れ新しい職場へ赴かれる先生方、在任中は子どもたちのために、また、清水の教育の発展・向上のためにご尽力を賜りありがとうございました。先生方が残された教育実践を財産とし継承していきたいと思っております。新任地でのご活躍をご期待しています。

◎第6回教研推進委員会（委員長：岩井先生・清水小）

2月16日（火）に第6回教研推進委員会が開催されました。協議内容を報告します。

1. 平成29年度一日教研講演会の演題について

演題：『自己肯定感を高める学級づくり』

講師：菊池 省三 先生（教育実践家）

2. 平成28年度の総括

（1）年間の取組の反省

・一日教研の日程について

講師の都合で開催時期が8月初旬になっているが、できれば今まで通り中旬以降で設定してもらいたい。（平成29年度は8月22日開催）

・年間計画への位置づけについて

「教育課程指定や防災教育指定の研究発表会の参加者が少ないように感じる。できれば半日教研の日程を研究発表会に合わせるできないか。」

協議の結果、教研の趣旨から難しいと思われる。教育過程の研究発表会の日程は、年度当初より決まっているので、各校の年間計画に組み入れることで参加が可能となるのではないか。

（2）来年度に向けての課題・申し送り事項

・各部会の実践等（指導案）を研究所HPに一括保存し、各校が活用できるようにする。

・組織教研会場について

中学校での開催は良いが、体育館は広すぎるのではないか。多目的ホールで十分に対応できると思う。

・部会編成について

小中連携の充実や新学指（外国語の教科化）導入が目前に迫ってきているな

か、今年度の部会構成、特に国語・小学校1名、外国語・小学校2名となっている。一校で同じ部会に複数名の先生方が参加することについては、校長会等でもお願いしてきた経緯がある。

平成29年度も今まで通り自主性・主体性を尊重することを基本とするが、校長会で一校で偏りが無いようお願いをする。

◎平成29年度市教研について

1. 教研推進委員

地区	担当校	役職	組織	部署等	役職
東部地区	下ノ加江小学校	委員	渭南教組	教文部長	委員長
中部地区Ⅰ	清水小学校	委員	校長会	校長会代表	副委員長
中部地区Ⅱ	清水中学校	委員	教育委員会	指導主事	事務局
半島地区	足摺岬小学校	委員	教育研究所	研究員	事務局
西部地区	下川口小学校	委員	教育研究所	主任研究員	事務局

2. 平成29年度の市教研に関わる日程等について

（1）組織教研： 4月19日（水）15：30～16：45

会場：清水中学校

（2）一日教研： 8月22日（火）模擬授業・講演・部会別研修会

会場：中央公民館

（3）半日教研： 11月 8日（水）授業研等（13：30～16：45）

※組織・一日・半日の各教研は、悉皆研修として位置付けています。

3. 平成29年度 第1回教研推進委員会について

平成29年 4月11日（火）16：00～16：45

会場：教育センター

4. 部会希望調査及び教研推進委員の提出について

提出締切：平成29年 4月 5日（水）

※メールまたはFax（83-0782）にてお願いします。

○部会構成員は5名以上。但し、技能教科については3名以上を原則とする。

◎第3回教育研究所運営審議会

3月9日（木）に第3回教育研究所運営審議会を開催しました。本年度の活動（教員の資質・指導力の向上、学力向上の取組、教育推進委託費（教研活動）・教育調査研究委託費（研究協力校等）関係の取組、豊かな心と健やかな体の育成の取組と成果と課題等について報告し、意見交換を行いました。

研究所の事業を進めるに当たり、多くのご教示・ご示唆を頂きました委員の皆様にご心から感謝を申し上げます。来年度も研究所運営、研究推進のためにご協力をよろしくお願い申し上げます。

<離職挨拶>

☆岩井崇通先生（少年補導センター補導教員）

最高の職場で2年間勤務させていただき感謝しております。学校現場から離れて、清水の子どもたちや地域を見ることができたことは、とても貴重な経験となりました。4月以降も清水に足を運ぶことは多くなると思いますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



～学級びらき・学級づくり～

○「はじめに子どもありき」の教育観に立つ学級づくり、授業づくり

内山 隆 氏（北海道教育大学釧路校准教授）

新学期。「今年はどんな子どもたちが、この学級に集うのだろうか。子ども一人ひとり、個性や生育歴も異なる。そうした子どもたちが、学級での生活と学びの中で互いにに関わり合いながら、時には対立や葛藤を乗り越えながら成長していける学級づくりをしていくことが教師の役割である。

「はじめに子どもありき」の教育観に立ち、「子どもとともにつくる授業」づくり、学級づくりをしていく時に、教師は子どもの見とりについても、指導案や単元の展開計画、学級カリキュラムについても常に修正を迫られる。教師が子どもが自己発揮し、仲間と学び合い成長していく場がひらかれていくのである。それは同時に、教師としての成長、人間性を豊かにすることにもつながるものである。

○年度初めの若手教師の悩みに答える

水上 和夫 氏（富山県公立学校SC）

年度始めは職員会議や公務分掌の打合せや始業式・入学式などが目白押しで、日程がびっしり詰まっています。若い先生方には忙しさに流されるのではなく、計画を立てて出会いの活動に取り組んでほしいと思います。第一日目から認めたりほめたりする言葉かけを多くすることで、子どもたちが今度の担任は「明るく元気」「認めてくれる」と感じるようにします。そして新しい学級が楽しく、安心・安全であることを実感させるのです。

◆「保護者から子どもに発達障害があるので配慮してほしいと申し入れがあった」
ADHD（注意欠陥多動性障害）やアスペルガー症候群など、発達障害の子どもがめずらしくなくなっています。保護者は子どもの障害に応じた個別の指導を充実させることを求めます。このような発達障害の子どもや保護者に対しては、次のような基本姿勢で対応するようにします。

- ①困った子ども → 困っているのは子ども自身
- ②何度注意しても変わらない → 本人の意思だけでは変わらない。
- ③やる気がない、努力が足りない、親の育て方が悪い。
→ 親だけが努力してもよくならない。

保護者とは困っていることだけでなく、うまくいっていることも話し合うようにします。問題行動だけでなく、家庭でどのような対応してきたのかを教えてください。工夫していることや学校・関係機関との連携の様子をたずね、指導でよくなったことを聞くようにします。

保護者の話は肯定的に聞くことが大切です。短い時間でも子どもに個別に関わることを心がけ、学校で頑張っている姿やよくなったことを家庭に伝えるようにします。子どものよい情報が学校と家庭で行き交うようにすることがポイントです。

◆「授業のルールが身に付いておらず、学習の準備に時間がかかっています。しからずによくする方法はないでしょうか」

指導でよく使われるのは、「注意」です。注意は子どもが従ってくれば、もっとも楽な指導法です。ただし、子どもは注意されるたびに、「自分は、悪いんだ（できないんだ）」と感じてしまい、自信を失っていきます。「注意」以外にどのような指導方法をもっているかが教師の力量です。「注意」を中心にした指導からの脱却が教師の指導力を飛躍的に伸ばします。

勇気づけのアドラー心理学では、子どもの不適切な行動には四つの目的があることを指摘しています。

- ①注目・関心を集める「ほめてもらえないなら、せめて叱られよう」

- ②力を誇示する「お前なんかには負けないぞ」
 - ③復讐「勝てないなら、せめて傷つけてやる」
 - ④無気力・無能力の誇示「私に期待しないで、もう放っておいてくれ」
- 子どもが普通のことをしたときには、「きちんとできるね」「頑張っているね」と注目を与えるようにします。きちんとしないときは注意をするのではなく、「準備はできたかな」「席に座ってできるといいね」など、問題行動に注目を与えない声かけを心がけます。

学級びらきでは、新しい学年で頑張りたいことや学級に望むことなどをカードに書かせ、ペアやグループで語り合う機会をつくります。そして自分の決意や進級の喜びを家族に話す宿題を出します。進級の喜びを多くの人と分かち合うようにするのは、その後、子どもたちと学級目標を決め、学級の実態や学年の発達段階に合ったルールをつくります。

学級づくりで最優先に取り組まなくてはならない課題は、「授業の秩序づくり」です。「聞くこと」「発言すること」「学習用具を整えること」など、授業のルールを決め、定着するように取り組みます。活動前にルールを確認し、ルールを守って活動する経験を積み重ねることがポイントです。ルールが守れない子どもには個別のかかわりを工夫し、粘り強く何度も繰り返して、よい行動をほめるようにします。そしてみんなの中で認められる場面を増やします。

子どもたちにとって若い教師は魅力的な存在です。若さを発揮して教師と子どもとの関係づくりを進めましょう。できたことを見つけ、うれしい気持ちをどんどん伝えるのです。子どもどうして認め合う場面をつくり、楽しく関わるようにするなど、関係づくりを意識して活動を進めることが大切です。

<書籍・DVDの紹介>

＝研究所から＝

貸し出し用として下記の教材を購入しましたのでご活用ください。

○多層指導モデルMIM

読みのアセスメント・指導パッケージ

つまずきのある読みを流暢な読みへ

<学研>

「MIM（ミム）とは、全体から個へ、すべての子どもたちに効果的指導を隅々まで届けようとする通常の学級における学力指導モデルです。このパッケージには、一人一人の正確で素早い語の読み能力を把握するアセスメントと、効果的な指導をすすめていくための指導法や教材が収められています。」

＝市民図書館から＝

今年度購入した下記平和教材（DVD）の貸し出しをしています。各校の平和学習等でご活用ください。

○石の声／沖縄戦マラリア地獄の記憶（アニメーション24分）

「沖縄戦でふるさとを奪われ、殺されていった多くの人々の嘆きや怒りを子どもを中心に描く」

○野坂昭如戦争童話集 凧になったお母さん（アニメーション45分）

「昭和20年夏、炎の海と化した公園で「熱いよう」と訴えるカッチちゃんを、お母さんを抱き続けて…」

○ひろしま／石内都・遺されたものたち（ドキュメンタリー80分）

「広島市の被爆をテーマにした写真展示会の準備の様や、観客の反応を一年以上にわたって追う」